

令和6年度第2回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会 議事録

- ◇日 時：令和7年2月12日（水） 10時00分～12時00分
- ◇会 場：石狩市役所 203会議室
- ◇出席者（オンライン）：溝渕 清彦、西川 洋子、圓谷 昂史、氏家 歴、石山 優子、
松島 肇、小林 卓也、鈴木 玲
- ◇出席者（会場）：長谷川 理
- ◇事務局：板谷 英郁（センター長）、佐藤 光弘（主査）、
佐藤 美弘（主任）、高橋 恵美（主任）
- ◇傍 聴 者：0名

【事務局】

これから令和6年度第2回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会を開催いたします。石山委員の参加が遅れておりますが、参加の予定となっておりますので、途中から参加されるかと思います。

【事務局】

センター長の板谷です。当市では11月に石狩市生物多様性地域戦略を策定いたしました。石狩浜海浜植物保護センターは25年前に開設して以来、石狩浜の保護に努めております。開設当初の無秩序に荒れていた状況からは変化してきましたが、地域戦略の策定をもとに、今後さらに石狩浜の保護をするための屋台骨となる石狩浜アクションプランを示しましたので、より根拠を持って取り組める環境が整ったと考えております。また、先日当課で開催いたしました「いしかり生き物かけはし座談会」で講演いただいた松島委員からもありましたが、人間が生きていくためにも生物多様性の保全は大変重要なテーマであり、石狩浜海浜植物保護センターはその最前線として、今後はさらに役割を増していくものと考えております。本日の運営委員会は第2回目で次年度事業も議題になりますので、ご意見いただきながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

第1回目で事務局預かりとなっております当委員会の副会長について、松島委員にお願いすることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

【溝渕会長】

よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、議事進行につきまして、溝渕会長にお願いして議事を進めてまいります。

す。

【溝渕会長】

本日もどうぞよろしくお願いします。センター長からお話があった通り、石狩浜アクションプランが策定されました。これと連動する石狩浜海浜植物保護センター事業について、令和6年度の活動報告と、来年度の事業計画について事務局から説明いただき、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。

それでは議題1、令和6年度の活動報告についてお願いいたします。

【事務局】

資料1及び2について説明

○補足

令和6年の事業については資料2で示した事業予算内で運営

【溝渕会長】

ありがとうございます。資料1, 2を合わせて報告いただきました事業に関わっている委員もおられると思います。補足情報等を含めて委員の皆様からご意見いかがでしょうか。

【西川委員】

資料2の予算について質問です。保護センター運営事業費については分かりますが、自然保護推進事業費はどういった位置づけになるのでしょうか。保護センターの事業ではどの部分が使われて、総額いくらくらいになるのでしょうか。

【事務局】

生物多様性発信事業という点について、保護センターの事業で委託事業として関わりのあるところです。合わせると大体1,000万円程度の額になるとお考えいただければと思います。

【西川委員】

ありがとうございます。

【溝渕会長】

公開する資料の表中には、金額の単位を入れてください。その他のご意見はいかがでしょう。

【西川委員】

5 ページ、Ⅱ-②植生管理にかかる手法の検討・検証にある自生種による外来種防除の検証について、前年度から継続調査しているハマナスの生育を阻害している種〜と

ありますが、詳しく教えていただいてもよろしいでしょうか。

【事務局】

報告書の26ページ中段より細かく報告をさせていただいておりますが、令和5年度の秋にハマナス再生園で増えているチガヤを刈取り、その後エゾカワラナデシコなどを秋に移植しました。しかし、苗は生存しているものの生育が遅くあまり効果が見られませんでした。

【西川委員】

今後も続けていくという理解でよいでしょうか。

【事務局】

当面は続けていく考えです。

【西川委員】

ありがとうございます。もう一つ、6ページⅡ-⑤-2についてですが、今まで取られている調査データを今後どのように管理されるのでしょうか。公開目的以外にも、データから植生の劣化状態とか、保全の必要性なども考察できるのではと思っています。今後どのような考えがあるのか、報告いただければと思います。

【事務局】

現在、調査報告としている点については、委託業務に含まれているので、業務報告書の中でご報告いただいております。それらをもとに希少種や外来種対策、公開情報のための集約については今後ArcGISを活用した事業を検討しているところです。

【西川委員】

毎年意見を出しておりますが、調査などを担当する専門職が少なすぎると思っています。事情があるのは理解していますが、運営委員の意見として議事録にぜひ残していただきたいと思います。

【溝渕会長】

西川委員ありがとうございます。事務局から何かご回答ありますか。専門職を雇用する以外でも、専門性を担保する方策はあるかもしれないですね。

【事務局】

ご意見として承ります。人事にも関わりますので、簡単に答えられませんが持ち帰って伝えたいと思います。

【溝渕会長】

3ページから8ページの進捗概要の一覧表に、詳細を説明したページの番号を追記

いただけるようにお願いします。また詳細ページでも「年度評価・到達度」が分かる方が良いと思うので、できるだけ作業を増やさず、情報を見やすく整理をお願いできればと思います。

そのほかのご意見いかがでしょうか。松島委員は先日の「いしかり生き物かけはし座談会」で講演されておりますが、そのご報告も含めて何かご意見いかがでしょうか。

【松島委員】

先日座談会でお話させていただいたのは、浜益で石狩市と共同研究をしている砂丘を復元している事業について、20名くらいの参加者の前でご紹介しました。

議題の話ではないのですが、今ご説明いただいた内容に合わせて資料も動かしていただいたと思いますが、説明と追いつかないので、ページ数を教えていただいてから説明いただけると聞きやすいです。

【事務局】

次回から対応させていただきます。

【溝渕会長】

会場にいる長谷川委員はいかがでしょう。

【長谷川委員】

どこまでが保護センターでの事業なのかが混乱するのですが、石狩浜という土地というアカモズの対策でカメラの設置や人の立ち入りなどを実施しました。その点においては保護センターでの活動にさせていただきつつ、発信も含めて活動報告に載せていただいてもよいのではという印象です。予算関係でいうと線引きが難しい部分もあると思いますが、同じ地域の話ですし、保護センターに期待する役割は非常に大きいです。石狩浜のアクションプランでどこまで担うのか、建付けも含めてあると思いますが、ぜひアカモズの部分でもPRしていただければと思います。

【溝渕会長】

アカモズに係る活動も、保護センターの事業と捉えてPRをお願いしたいというご意見ですね。関連してですが、運営委員会委員に、石狩浜アクションプランの正式版について案内はありましたでしょうか。

【事務局】

まだしていませんでした。

【溝渕会長】

市民が石狩浜アクションプランの内容や進捗状況について知る機会は、とても限ら

れていると思います。情報にアクセスできる手段として、保護センターのホームページにも、アクションプランへのリンクを貼っておいていただきたい。

また、長谷川委員から、アカモズの取り組みについても関連情報として発信してはというご意見がありましたが、その点についていかがでしょうか。

【事務局】

今現段階では、保護センターのホームページには、アクションプランのリンクを貼ってはいないので、検討したいと思います。

また本日は、現在の保護センター業務ということで枠を決めて報告しておりますが、今後ネイチャーセンター的な機能がセンターに持たせられるような展開を担当課では考えてはおり、アカモズ等、関連情報についても検討したいと思います。

【溝渕会長】

保護センターのサイトが、いしかり生き物かけはし戦略のポータルサイトの機能を持つことができるように、情報を集約していくことをご検討いただければと思います。

【圓谷委員】

前回、現地を見せていただいて多岐にわたる事業展開をされていて素晴らしいと感じました。海辺オロジーも参加させていただき、盛況だったと感じております。当館でも悩ましいところですが、最近コロナの収束で海外からのお客様が結構増えてきているなという印象があります。予算の部分とかもいろいろあると思うのですが、都市札幌の近くで、自然が残っている石狩という紹介はできると思います。例えばその展示の部分とか、一言でも英語表記があってもよいかと思います。

【溝渕会長】

インバウンドの対応や学校教育など、来館者の動きに関わってくるかと思います。事務局のお考えはいかがでしょうか。

【事務局】

来館者についてですが、報告書の39ページに来館者の内訳を簡単に書いてあります。現段階においては、全くとはいわないですが、海外からの利用は少ないです。ハマナスの丘公園では、監視員からの報告で韓国語の書かれたバスから観光客が降りてきて、保護区に立ち入って大変だったという報告を一度受けています。それ以外は特にありませんでした。市内で生活するために必要な情報の多言語化は進めているところもありますが、砂丘の風資料館やヴィジターセンターの状況も聞きつつ、同じように進めていけたらと考えております。

【溝渕会長】

そもそも翻訳されておらず、認知もされていないという状況かと思います。市全体の観光戦略に関わりますが、貴重な自然について発信できればよいと思います。

それから事務局からの報告で、今年度は特にクラフトに力を入れたと説明ありました。詳しく説明いただいてもよろしいでしょうか。

【事務局】

報告書35ページをご覧ください。令和5年度に、新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下がったことを受け、過去にも実施していた海浜植物のクラフトを再開しました。体験されたお客様の反応を見て、今年は新たに石狩浜に流れ着いた流木を使ったフォトスタンドや、家に帰ってからも使った海浜植物のタネの種類が分かるように名前が書いてあるカードを作成してお渡ししました。このクラフトの取組自体が、センター外でもできるものなので、市民図書館などでも実施しました。そこで体験してくれた方が、保護センターにも来てくれてというつながりもできたので、次年度事業でも触れますが、海浜植物や観察園へのつながりを少しずつ広めていけるように続けられたらと考えています。

【溝渕会長】

ご説明いただいた前の33、34ページに環境学習に関わる報告がありますね。氏家委員から、中学校での取り組みについてご紹介いただけますでしょうか。

【氏家委員】

石狩中学校では、毎年環境学習ということで、保護センターで植物や石狩浜のゴミや漂着物のことを学ばせてもらっています。今年度も6月にセンターで同じように全員で学習しました。さらに探究活動として、生徒自身が課題を見つけて、さらに掘り下げて調べるグループは9月にもう一度センターで学習をしました。石狩浜の海浜植物はどんな役割があるか、保護活動はもちろん、保護をしている理由、例えばハマボウフウは食べることができたり、資源になったり、自然の防潮堤、グリーンインフラの考えなど、生徒たちはすごく興味を示していました。それらを調べて、まとめ、発表するという活動をしました。来年度以降もそういった形で探求したいことを調べる環境の基盤になるところがあるとよいと思いました。この活動を通じて、事業者の方や法人の方が関わっているということも知りましたので、そういった方たちに繋げてもらうコーディネート役になってもらえるとありがたいと思っています。

後は、中学生の実態として石狩浜のことを余り詳しく理解していない部分が多いという意味では、中学校側も知る場があると重要かなと思います。もっと市民の方も知

れる機会があると、そういったものから、生徒たちへ伝えることができると感じています。

【溝渕会長】

事務局はいかがでしょうか。

【事務局】

今年度は、氏家委員にご相談をいただきました。バギーが砂丘に乗り入れた過去はもちろんです、実際の今の石狩浜の問題、保護センターで実施している植物の調査、ハマナスの地域資源利用、外来種の問題など様々な問題を提起して、興味を持つようにワークシートを新たに整備しました。報告書では32ページに紹介しております。今までは小学校の見学が多かったので、なかなか踏み込んでお話することが難しいということもありましたが、今回の話もありましたし、高校生の見学予定もありましたので、進めることができました。

【溝渕会長】

氏家委員からのご報告で、生徒自身が発信していく機会を得たという点は大変重要だと感じました。コミュニティスクールや地学協働の取り組みも広がっており、ぜひ生徒の皆さんが発信する機会を、保護センター事業としても提供できれば良いと思います。

【石山委員】

クラフトについて、子どもたちも参加させていただきましたが、利用しやすかったです。1点目に、報告書の年度目標で例えば利用数を増やすという表現があるのですが、数値目標など明確な評価基準があると分かりやすいです。例えば、アンケートについて、有効回答者数が19名で、来館者数が3,000名の意見というのは難しいのではと思います。アンケートの回答についても、何年間で何名から聞くということでデータに使えるようにする目標数があるといいと思います。

【事務局】

今年度については、はまなすフェスティバルやイベントの時には保護センターの常時おいていたアンケートではない別のものを集めていました。なので、積極的な誘導は確かにしていない点もありました。来館者の方から声を受け取れるような取り組みを引き続き検討していきます。

【溝渕会長】

はまなすフェスティバルではどのくらいの方に回答いただいたのでしょうか。

【事務局】

今すぐにお答えはできません。大体500人来場して30くらいだと記憶しています。クイズラリーなどに参加して、景品と引き換えにアンケートを集めておりました。

【溝渕会長】

普段の来館者アンケートと、イベント時のアンケートの設問を調整し、合算してカウントできるようにする必要があると思います。また、オンラインアンケートについては、どのような状況でしょうか。

【事務局】

フォームは整え、二次元コードの準備もしました。ただ、保護センターの来館者の方が二次元コードを使用してアンケートに答えるというまでになかなかつながらないのが現状です。今年度はお声かけもそこまで実施しなかったなので、次年度はフォームの活用を含め検討したいと思います。

【溝渕会長】

回答に対して、何らかのそのインセンティブが働くようにしたり、アンケート用紙に二次元コードを掲載して、いろいろな方法での回答を確保したりするなど、事業や対象によって工夫をお願いできればと思います。

【小林委員】

農業界の話なのですが、生物多様性が大切だということで、ネイチャーポジティブなどが議論になっています。農業界では、昨今、野菜、お米とか石油や人件費が高騰していますが、天候不順によって計画通りに作れないということもあります。そこで、自然界に真似て、例えばアブラムシが発生するときに、農薬をまくのではなく。テントウムシが畑に生息するような環境づくりが大切なのではという考えがあります。農薬をまいても、昆虫の方が早く耐性が出来て、たちごっこにもならない。それに加えて天候不順で作物が健康に育たない、弱っていくという現状があるので、多様性を維持するかが非常に大切だと勉強会でも宮崎大学の大野先生という方が話されていました。保護センターの取組でも、生物多様性というキーワードが出ていますが、そういった取り組みが農業界でも参考になると思います。

二つ目に、企業の価値を判断する上で、CSRとして取り組んでいるか求められているかと思いますが、そういった企業に石狩市や保護センターの取組が触れるように、関心を持ってもらうようにアクセスできる環境整備が必要かと感じました。先日、自分が所属している団体に、近隣の企業からそういった問い合わせがありました。こういった保護センターの活動の取組に着目する方もいると思うので、そういっ

た目に触れるような環境整備をお願いしたいと思います。

【長谷川委員】

今のご意見に付随してですが、生物多様性地域戦略の時も質問しましたが、企業からの支援というのは石狩市として受け入れ体制はどのようなのでしょうか。企業の方でそういったマッチングがあった場合に、企業から支援を受け入れるような体制はあるのでしょうか。

【事務局】

体制として整備していない状況です。企業の方でも関心が出てくると思われるので、センター、自然保護課としても検討する必要があるかと考えております。

【長谷川委員】

具体的に環境まちづくり基金に資金支援してもらって、保護活動に活用するという内容は企業でも関心があると思います。今の環境まちづくり基金は買電収益を入れているということですが、今後自然保護課でも検討はする必要があると思います。

【事務局】

昨今の状況を見て、受け入れについては検討していく必要があるかと思っています。

【長谷川委員】

企業が自前で、何か企画して生物多様性への事業を実施することもあるとは思いますが、なかなかやりにくいと思います。例えばアクションプランとか、地域戦略があるので、そういったものに絡めながらできたら良いと思います。

【事務局】

別件になりますが、企業版ふるさと納税というものもあります。企業版ふるさと納税を選ぶ基準がまちづくり総合戦略となります。令和7年度からまちづくり総合戦略が改定になり、新しくスタートする中で、石狩市の自然や生物多様性についての文言を追加しています。全市としてそういった体制を設けているので、企業向けにどうPRしていくかは今後検討していければと思います。

また、小林委員からありました企業からの問い合わせについてですが、直接自然保護課に問合せがあり、一緒にやれる事業を提案することもあります。市内の生物情報を発信する媒体が欲しいという要望があれば、こちらで作成している回覧板を共有していただくこともあります。今回の件については、企業さんからのお声かけがあり、団体へ共有させていただきました。

【西川委員】

保全に取り組む立場から、資金の問題は大きく、継続的に対策したいと思っていて

も続かないこともあると思います。企業からの支援は、欠かせないと思っているので受け入れの仕組みづくりは進めてほしいと思います。

追加で小林委員へのご質問です。農業界でも、生物多様性に関心を持たれている方が多くなってきたというお話でしたが、北海道の農業は大規模で単一の作物を育てることが主流かと思いますが、生物多様性保全を踏まえた農業の進め方というのは徐々に浸透しているのでしょうか。これからの課題としているのでしょうか。そのあたりの感触を教えていただけたら嬉しいです。

【小林委員】

十勝へ行くと有機栽培もありますが、自然栽培を大規模にされている方もいます。いわれた通り、近代農業でモノカルチャー的に効率的、集約的に作るということが一般的かと思いますが、モノカルチャーが害虫の発生要因にもなっているだろうと。ポリカルチャー、ミックスカルチャーといういろいろな種類を作るということが今後のキーワードになる、今後そうなっていくと思います。主役性みたいなものは相反するようになりますが、畑の畝の一部にグリーンゾーンを作ってみるということもできると思います。昔のやり方に戻るのではなく、今だからできるやり方を構築していこうというのが現代的な考えですね。GPSを使って自動でトラクターも管理しますし、除草は自動操作のトラックはするけど、グリーンベルトの部分はやり方を工夫して管理するというマネージメントをしてミックスカルチャー的な、多様な畑を作ることがいかに自然と共存するか研究されています。

【西川委員】

保護センターの運営と直接関係はしないかもしれませんが、全体としてそういった考え方が浸透するといいなと思い質問させていただきました。ありがとうございます。

【溝渕会長】

みどりの食料システム戦略に対して消極的な主体もありますが、大規模農家の方たちはAI等も活用して、積極的に取り組んでいらっしゃいますね。

【小林委員】

大規模にやられている十勝などは進んでいますね。ぜひとも石狩でも取り組んでほしいです。

【溝渕会長】

企業連携については、来年度の事業の中に組み込んでいく必要があると思います。事業計画に関する意見交換の際、改めて整理できればと思います。

【長谷川委員】

1点質問があります。漂着物のクラフトや、ビーチコーミング、親子参加の昆虫探しなど良い取り組みだと思います。調査の精度は伴わないかもしれませんが、データをとるのはよいことだと思います。マルハナバチについてはいかがでしょうか。生物多様性戦略の中でもマルハナバチのモニタリング事業について載っていたので、駆除活動の位置づけだったと思いますが、モニタリング活動として在来種のマルハナバチを含めて観察したらと思っています。成り立たないとかあるのでしょうか。

【西川委員】

私自身は、研究の一環として右岸側でモニタリングを続けています。ハマナスやハマヒルガオなどの目立つきれいな植物との関わりをテーマに観察会を子どもたちも含めてできたらよいと思いますし、石狩浜の生態系の健全性を見ていく指標としても有効なので、イベントを企画するというのは可能かなと思います。外来種であるセイヨウオオマルハナバチだけではなく、石狩浜にいる在来種を含めてモニタリングすることは意義があると思います。

【長谷川委員】

マルハナバチは、外来種対策も、気候変動のモニタリングになりますし、農業との受粉の関わりで、生物多様性を考えられる教材ではないかと思います。新しく始めるのは大変かと思いますが、石狩市はこれまでも続けているのであればどうなのかなという提案です。

【事務局】

ありがとうございます。今画面共有しているのが令和5年度の石狩市の環境白書ですので、報告としては令和4年度の内容です。過去には西川委員にもご協力いただきながら北海道の取組として、セイヨウオオマルハナバチの駆除を石狩市でも実施していました。ただ当時は7月に保護センターの周辺で働きバチを捕獲して、西川委員にお話いただくという内容でしたが、場所自体の花が減少して、マルハナバチ自体が見られなくなってきたというのもあったので、参加型ではなく自然保護課の業務として、ハマナスの丘公園と紅葉山公園の2か所でハチとみられた花のデータをとっています。1日ずつしかとっていないのですが、年々見られる時期が変わっていつていることや、そもそもハマナスの丘ではマルハナバチ自体が見られることがなくなってきました。参加型という形が取れないわけではないのですが、ハマナスの丘では海浜植物の開花と合わせてハチのデータを見つつ、紅葉山公園などは身近な植物にハチが来ていることを見るきっかけになると面白いと思いますので、検討はしていきたいと思

います。

【溝渕会長】

市民参加型の情報収集に関しては、「フォームの作成は終わっているが体験に至っていない」と報告があります。ご提案いただいたような活動の中で、実現していければ良いと思います。

それでは残り時間で、事業計画について説明をお願いいたします。

議題 2

【事務局】 資料 3

・ R6 年度では、保護センターで実施する事業に関連した事業『 I 事業・学び・体験の場として施設機能の充実』と分類

➡自然情報発信・体験学習事業に統一し石狩浜アクションプランに全て統一

・ 事業ごとに対応する担当者を追記

【溝渕会長】

1 ページ目の行間や、ページ番号が振られていない点等、一般の方にとっては手に取りにくい、見にくい点があります。整えていただければと思います。また、前文については、石狩浜アクションプランの内容に沿って、更新を検討いただくようお願いいたします。続いて事業群 1 の説明をお願いいたします。

【事務局】

・ R7 年事業として特に力を入れて取り組む内容としては、

I 自然情報発信・体験学習事業

1 展示室

1-1 常設展示の維持管理

R6 年度で作成した樹脂封入標本を活用した展示の修正と、より分かりやすい展示の表現を工夫していきます。

4 体験プログラム

4-1 センターを活用したプログラムの実施

4-2 センター外での普及啓発の実施

市内小中学校を中心とした見学へのより分かりやすいプログラム作りと、センターの中にとどまらず市外への発信を市内の施設や、外部団体と協力し、より進めていく予定です。

【溝渕会長】

事業報告に関する意見交換で、展示物の多言語化についてご意見がありました。また「参加型自然情報の収集」に関連して、例えばマルハナバチを活動の対象としてはどうかというアイデアをいただきました。

「情報発信／連携」については、石狩浜アクションプランにアクセスできるようリンクを貼ることや、企業連携に関するご提案がありました。「連携」について事業計画では「外部団体主催事業への協力・出展」しかありませんので、項目を増やすのがよいのではないかと思います。実際に次年度、マッチングを事業として行うことはハードルが高いと思いますが、まずは検討や、ホームページに企業向けのパナーを置くということからのスタートでも良いと思います。

また、「来館者のニーズ、意識把握」については、アンケート調査のサンプル数を増やす、評価基準を明確にするなどの意見がありました。そのほかご指摘がありましたらお知らせください。

【松島委員】

氏家委員がお話されていた環境学習で小学校や中学校からの要望を他の企業とコネクションする、コンサルティングについて情報発信に含まれると思います。現状と今後について確認です。また、CSR以外の企業との連携やネイチャーポジティブに即した事業との関わりについてサポートする取組についてもあってよいかと思います。

【溝渕会長】

「情報発信／連携」について協力・出展だけではなくて、外部団体、学校、機関、企業等との連携・協働に整理するのがよいですね。事務局はいかがでしょうか。

【事務局】

現状として、自然保護課では希少種や外来種、環境課では気候変動などの出前講座を実施しています。また、学校から要望があつて外部のNPOや、例えば北海道の地球温暖化防止活動対策推進員さんに繋げるなどの役割もすでに実施しています。企業との連携については、企業連携推進課という課がありますので、そこから自然保護分野の観点で話が来ることもあります。大きな部分で実施しているので保護センターの計画の中で書き込むかという点もありますが、そこは検討させていただければと思います。

【松島委員】

長谷川委員の意見もありましたが、生物多様性に関心を持っている企業も多いですので、資金面では特に企業が手伝ってくれるのであれば、積極的に受け入れられる仕

組みや体制があるとよいと思います。

【溝渕会長】

5－4を拡張した形で加えていただけたら良いと思います。他になれば、ⅡとⅢを合わせて説明お願いいたします。

【事務局】

Ⅱデータに基づく保全対策の実施

3 希少種

3-1 希少種イソスミレの生息状況の把握

一部ですが生育が危ぶまれる個体の周辺の刈取りを R6 年度に実施しました。その結果について次年度も引き続きモニタリングを続けていきます。

Ⅲ自然資源の適正管理と適正利用

監視員業務と兼ね合い実施

【石山委員】

Ⅲ-1 で車両侵入の有無について監視員さんの情報収集の仕方なのですが、石狩浜の現場をどう使っているかの情報はこういった形のデータでまとめているのでしょうか。またどうやって過年度と比較をしているのでしょうか。

【事務局】

業務日報に、毎日・どこで・何がという記録を付けています。昨年度は韓国の観光バスがはまなすの丘公園に一度だけ来て、保護区の中に入ったという話がありました。そういった点では多言語化の対策は考える必要はあるかもしれません。

【溝渕会長】

今年度の活動報告の中ではどこに記載されていますか。

【事務局】

監視業務については、保護センター内の活動を主に報告しておりますので、監視業務については明記していません。

【西川委員】

Ⅱ-2-1 について、こちらの事業の関係ですが、時期は未定ですが、具体的に再生に結び付く内容を提案できると考えています。調査からさらに提案、実践に向けた段階に来ておりますという補足をさせていただきます。

また、Ⅲ-2-1にあるニセアカシアの除去ですが、継続的に実施される予定でしょうか。

【事務局】

今年度は監視業務として実施しました。引き続き少人数ではありますが対策していくように考えています。

【溝渕会長】

石狩浜アクションプランでは何年までに対策するという期限を設けているのでしょうか。

【事務局】

期限は設けていません。

【松島委員】

先ほどの監視員の業務ですが、デジタルデータにして、見えるようにできないでしょうか。その方が今後の活用が広がると思いますので検討をお願いいたします。

【溝渕会長】

事務局からいかがでしょうか。

【事務局】

過去に紙データをデジタルデータに落とし込んだことがあります。別の人がやるのは少し労力がかかります。監視員は年齢が高めの方がなることが多いので、どこまでお願いできるかは明確ではありませんが、見える化は大切ですので、デジタル化の部分を含めて企業等のご協力を得ながら、子どもたちも参加などを織り交ぜながら進められたらと思います。

【長谷川委員】

石狩浜のアクションプランに入っているか忘れましたが、自然共生サイトの登録については明記してあったでしょうか。

【事務局】

アクションプランには入れていません。

【長谷川委員】

地域戦略との兼ね合いもありますが、保護センターは、石狩浜アクションプランにとどまるのではなく、生物多様性を発信する位置づけになることが期待されます。現在実施している事業を計画にまとめるだけで、すでに登録はできると思いますし、環境省が進めている活動支援連携センターの役割も担えると思います。

【事務局】

こちらとしても、保護センターが生物多様性を担う施設にという考えではあります。市としても引き続き応援いただければと思います。

【溝渕会長】

ぜひ自然共生サイトなどについても触れていただきたいと思います。

石狩浜アクションプランの「推進体制」を見ると、進行管理は環境審議会が、「保全事業の方針や手法の提案、検証」は有識者会議が担い、事業は「保護センター事業、自然保護課事業、その他関連機関や市民との連携・協働事業として取り組む」とあります。現状の事業計画ではその「連携・協働」の部分が手薄に感じられますので、自然共生サイトなどについても触れつつ、「連携・協働」について追加、整理いただければと思います。

他に最後に何か確認したいこと、ご提案、ご意見等があればと思いますが、いかがでしょうか。お気づきの点がありましたら、事務局へメール等でご質問いただければと思います。

特にないようでしたら、質疑応答を終了し、事務局にお返しします。

【事務局】

これで令和6年度第2回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会を終了いたします。議事については委員の皆さんに確認させていただきます。本日はありがとうございました。

議事録を確認しました

令和 7 年 3 月 3 日

石狩浜海浜植物保護センター運営委員会

会長 溝 渕 清 彦

